



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要					
建物名称	セキスイハイム東海株式会社静岡支社	BEE	1.2	BEEランク	B+
				★★★	

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3 / 5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 / 5		がんばろう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.9 / 5		がんばろう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3 / 5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.3	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)				
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①必要部位に断熱材を設け、建物の熱負荷抑制に配慮 ④内装仕上げ、床・カーペット(20年)、壁・天井:ビニルクロス(20年) ④汚水・雑排水管:VP、給水管:VP ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤外構緑化指数:33% ⑥緑被率、水被率、中高木の水平投影面積率:16% ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦Low-Eガラスの採用 ⑨LED照明の採用 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水型機器の採用 ⑫LGS+仕上げ材、OAフロアの採用 	<ul style="list-style-type: none"> Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善 			
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)			
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰耐震クラスA 	<ul style="list-style-type: none"> Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備 		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑲階高:4.1m ⑲壁長さ比率:0.21 ■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) 	<ul style="list-style-type: none"> Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上 			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)			
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑳外構緑化指数:33% ㉑緑被率、水被率、中高木の水平投影面積率:16% ■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑲温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑲LGS+仕上げ材、OAフロアの採用 	<ul style="list-style-type: none"> Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出 2 ㉑ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ㉒ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ⑲ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ⑲ 温熱環境悪化の改善 			

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	セキスイハイム東海株式会社静岡	階数	地上6F
建設地	静岡県静岡市駿河区東静岡二丁目	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	200 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,400 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年2月 予定	評価の実施日	2021年2月5日
敷地面積	1,281 m ²	作成者	株式会社淺沼組名古屋支店 松本有香子
建築面積	770 m ²	確認日	2021年2月5日
延床面積	3,439 m ²	確認者	株式会社淺沼組名古屋支店 松本有香子



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>本施設は事務所6階建てと高さのある建物となっている。敷地南側にあるメイン幹線である南幹線より圧迫感が生じないように建物3階をセットバックさせた計画としている。敷地緑化についても地表面に十分な緑化を行っている。</p>		0
<p>Q1 室内環境</p> <p>事務所部分に関しては各居室に界壁を適切に配置して騒音等に配慮している。室内仕上げにおいてはF★★★★を採用して空気環境に配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>リフレッシュスペースとして十分な空間の休憩スペースを計画している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地面積に対して13.06%の緑化を行っている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>建物外皮の熱負荷抑制に配慮している。BPI_m = 0.86 設備システムの高効率化に配慮している。BEI_m = 0.67</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水型の便器を採用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率を76%としている。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される